浄願寺だより

H30冬-No.9

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思います。夏・冬二回の発行を予定しています。

平成三十年一月二十日発行
編集責任者
浄願寺住職　関　秀法

祈り

祈っているために
空を見よう
あのむこうは
ぼくらのふるさとだから

いつも祈っているために
空を見よう
あの空とくらべたら
なんて小さなことだ

この一生　悲しみもしよう
死にたくなるときもあるだろう
そんなとき空を見よう
命が散ってしまっても
空が永遠に青いように
だれかのもとに
いいことあるさ

生きぬこう
空を見て生きぬこう
きっといいこともあるさ

北原敏直

先日、何気なく祖父が残した古い本をめくっていた時、出会った詩です。作者は北原敏直という方で、詳しいことはわかりませんが、昭和三十五年生まれ、五歳の時、筋ジストロフィーを発症し、病状が進んでからは千葉の病院で起居され、十五歳の若さで亡くなっていらっしゃいます。ということは、この詩は敏直さんが十五歳以前に書かれた詩だということです。

私は詩に詳しいわけではありませんが、この詩を読んでいると、何か清々しい風が心の中を吹き抜けて行くように感じます。限りある命の向こうに、永遠なるもの、帰るべきところを見出した人の言葉はこんなにも明るく澄み切った響きを持つものなのかと、今更ながら気付かされました。

わたしたちは皆　限りある命を生きています。限りある命の中で、思い通りにならぬ人生に苦しみもがきながら生きています。しかし、同時にこの命は、大自然や大宇宙の整然たる営みの中の一部でもあります。私たちのこのはかない命が、どこまでも広がる青空のような無限なるもの、永遠なるものとつながっているのだと感じた時、自分をこえた本当の「祈り」が生まれる、敏直さんはそうおっしゃっているのでしょう。そしてその「祈り」こそが、私たちを生かしているものの本質なのだと。

それは、つねにこの命の果てにお浄土の世界を見つめ、「無限のいのち・無限の光」という意味の阿弥陀仏の名を称え続けられた、親鸞聖人のお心にも通じるものがあるように思います。

今年もまた、私たちは多くの人と出会い、多くの人と別れて行くことでしょう。私たちが限りある命を生きているかぎりそれはどうすることもできません。だから、

命が散ってしまっても
空が永遠に青いように
だれかのもとに
いいことあるさ

だからせめて、つらくとも、この十五歳の詩人が残したような、明るく崇高な祈りをもって日々を生き、人生を全うできるような、そんな生き方がしてみたいと、心から思うのです。

平成三十年一月
住職

写経の会

無理せず 楽しみながら つづけています

浄願寺では毎月、近隣のご門徒さんが集まって写経会を開催してくださっています。

日時はたいてい、第三木曜の午後七時。（夏場は七時三〇分）

まずは皆でご本尊に合掌し「重誓偈」をお勤めします。そのあと住職が「歎異抄」を朗読し、そこから約一時間から一時間半、張りつめた空気の中で真剣にお経を書写します。字の上手い下手は関係ありません。

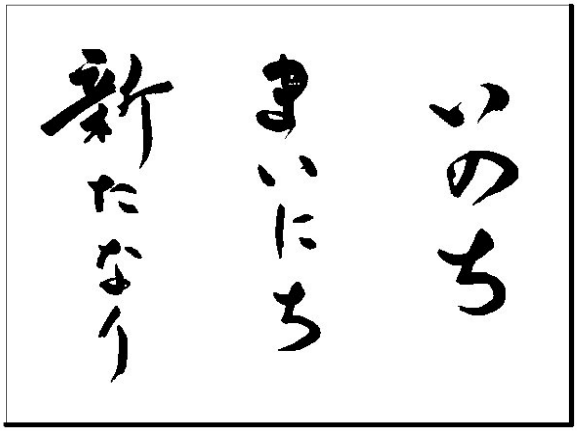
写経に使うお経は「重誓偈」「讃仏偈」「正信偈」などの浄土真宗のお経を使わせていただきます。

写経の後は、別室で気の合った仲間が集まって、いろいろな話に花が咲きます。昔話や、時事のニュース、仏事や仏教についての話もよく飛び出し、私もたいへん勉強になります。

無理せず、楽しみながら続けてきた浄願寺の写経会。参加ご希望の方や、浄土真宗の写経用手本などお求めの方は、住職までご連絡ください。

一字一字、丁寧に、真剣に．．．。

お寺の掲示板



字·関秀實

「門徒の広場」はWEB版ではご覧いただけません。

浄願寺の永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。

永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。

浄願寺永代供養墓は車道に面したお参りのしやすいお墓です。

詳しくは浄願寺ホームページか住職までおたずねください。

編集後記

父親ももう七十四になります。おかげさまで今のところ元気にしています。私の継職と同時に、スッとお寺から身を引いてくれたのは、わが親ながら見事でした。ところが昨年は、私の娘の学校のPTA関係の行事が多く、お寺の仕事にどうしても出られない事も多々ありました。そんな時、頼りになるのはやっぱり父親でした。まだまだ現役。どうぞお元気に。

浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺
〒620－0925
福知山市上篠尾725
電話（0773）－22－5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com
住職　関　秀法